

## 第2章 現状・課題・展望

赤ちゃんから中学生まで、それぞれの成長発達段階における本町の取組と現状を紹介します。

### 1 乳幼児・就園前児

#### ブックスタート

ブックスタートとは、絵本を開く楽しい体験といっしょにあたたかなメッセージを伝え、赤ちゃんの健やかな成長を応援する活動です。

平群町では、3～4ヶ月乳児健診時、ブックスタートボランティアが、赤ちゃんとのふれあいの大切さやことばかけの大切さをお伝えしながら、絵本を2冊プレゼントしています。ブックスタートボランティアは養成講座を隔年に開催し、健康保険課・町立図書館・ブックスタートボランティアの三者連携の体制で進めています。また、同時に図書館利用カードをその場で発行する登録デスクも開設しています。



手作り絵本バッグ



健診受付で…「どの絵本にしようかな？」

#### ブックスタートボランティア

- \*活動開始 平成13(2001)年より平群町健康保険課の事業で、「平群町おはなしの会」がボランティアとして活動を開始。平成16(2004)年4月よりブックスタートボランティア養成講座修了生が担当。現在21名で活動中。
- \*活動内容 隔月の研修会でのブックスタートについての再認識、スキルアップのためにふれあい遊びや乳児発達理論を学んでいます。プレゼント用の絵本バッグを手作りしています。

#### ブックスタートボランティアのメッセージ

ブックスタートは、その名の通り「読書のはじまり」です。「読む力」は「生きる力」と言われています。お母さん、お父さんに絵本を介して赤ちゃんとお父さんとお母さんととゆっくりにふれあうひと時や、赤ちゃんの豊かな心と言葉を育むきっかけづくりに、絵本との出会いを応援していき、そして絵本やお話を通して、本を読む楽しさが分かり、心豊かに生きる手助けになればと……。

## 平群町子育て支援センター

### \*現在の様子

センターの開放・お誕生会・おはなし広場などの月行事・親子 DE うきうきタイムなどのイベント・育児相談・子育てグループの育成など、地域ぐるみの子育てをめざし、多彩な取組を続けています。センターの書棚には約 1,300 冊の絵本や育児関係の本・雑誌があり、貸出しもしています。



おでかけトントンの「トントン劇場」で紙芝居



セタコンサートにて絵本の読み聞かせ中



### 【あかちゃんえほんのひろば】

年2回 支援センターと町立図書館が協力して、絵本をたくさん面展示し、赤ちゃん向けのおはなし会を行っています。

### 【全国訪問おはなし隊】

約300冊の、絵本をのせたゆめいっぱいバスが、2年ごとに奈良県内の学校・園・図書館を訪問しています。町立図書館と協力して平成20・22・24年度におはなし会を開催しました。他に町内で申請した所にも来てくれます。



おはなしキャラバンカー

### \*これから目指すこと

センター以外の場所でのイベントにも積極的に絵本や紙芝居を持っていき、お話に触れ合う機会を増やしていきたいと思えます。

## 2 保育園・幼稚園

はなさと保育園

在園児数 125名

子育て支援センターと隣接し、町立図書館とも近く、図書館の団体貸出なども利用しています。また「平群町おはなしの会」の方に月1回来ていただき、お話の読み聞かせをしてもらっています。エントランス通路の書棚には絵本があり、家庭への貸出しも行い、沢山の方が利用されています。



貸出ノート



エントランス通路の図書コーナー



ランチルームの隅にも絵本だなが

小さい子の部屋には絵本ポケット、大きい子の部屋には面展台の絵本コーナーがあり、子どもが自由に本を読めるようになっているだけでなく、1日数回の保育士による絵本の読み聞かせを行っています。絵本は大好きで、子どもたちはいつも、集中して聞いてくれます。



小さい子用の絵本ポケット



大きい子の部屋の絵本だな

絵本をイメージして、からだやことば、音で表現するということが大切になっています。0歳から5歳までの子どもたちが一つの絵本をイメージして、運動会で表現しました。また、学期に1回、職員による絵本の表現を子どもたちの前で披露し楽しんでいます。広がりのある絵本活用を行い、絵本を大切にしたい保育を心がけています。

課題としては、絵本の貸出しが多いので本の傷みが激しく、管理方法の工夫や冊数を増やすなどの必要性を感じています。



園内のあちこちに、絵本のあるコーナーをつくり、子どもたちがいつでも絵本に触れられるようにしています。主体性を養う環境教育の一つとして0歳児から、自分で出して自分で片づけられるように、絵本ポケットなどの工夫もしています。絵本と体験が結びつくような、保育士手づくりの布絵本もあります。



あちこちに絵本が



絵本コーナー



手作り絵本

プレイルームには季節の本や月刊絵本、年齢に応じた本、保育士のおすすめ本などがあり保護者にも貸出しされています。地域の拠点となる保育園でありたいと、園庭開放やおでかけ保育を通して、地域の子どもたちにもエプロンシアターや、紙芝居をしています。特に食育につながるものや子どもたちのよく知っているお話を選んでいきます。



飼育箱と絵本と一緒に



プレイルームで

「平群町おはなしの会」による、おはなしタイムは、子どもたちがとても楽しみにしているもので、読んでもらった本はよく手にとられ、教えてもらった手遊びやお手玉などは、引き続いて園でも遊べれます。

子どもたちは絵本が大好きです。各クラスとも、子どもたちのリクエスト本や保育士の推薦本や季節の本など1日数冊、読み聞かせをおこなって

います。クラスでは飼育ケースの隣に育て方の本を置き、小動物の成長を確認したり発見したり、お互いに教え合ったりすることを楽しんでいます。また、あやとりや折り紙の本、子どもたちの成長に合わせた興味をひく本なども身近にセッティングされ、いつでも自由に遊びに取入れられるようにしています。子どもたちは色々な本を通して様々なことに興味関心を持ち、経験の幅も広げ、互いに育ちあっています。これからも子どもたちと絵本の出会いを大切にしていきたいと考えています。

## 平群幼稚園

在園児数 178名

絵本はとても大切なものと捉え、現在リズム室の一角や各保育室に絵本のコーナーを設けていますが、「子どもたちが好きな時にいつでも絵本に親しめるように」という思いから、平成24年6月、園庭に“絵本の部屋”を設置しました。遊びの中で虫や花などを見つけて、すぐに調べたい時、好きな本を先生に読んで欲しい時、友だちと一緒に読みたい時など、すぐ絵本の部屋に入って絵本をみることができます。

園庭に建てられた「絵本の部屋」



ウッドデッキでの読み聞かせ

絵本の部屋の中の様子



### ～木陰での絵本タイム～



また季節に合わせて、気候の良い時は木陰の下で読めるようにしたり、寒い時は温かいカーペットを敷いて風よけをしたりし、心が安らぎ心地よさを感じながら読めるように環境づくりをしています。

月に1回「平群町おはなしの会」の方に来ていただき、学年別で年齢や季節に合ったお話の読み聞かせをしてもらったり、町内の個人ボランティアの方に「キッズタイム」（園庭開放）で園児や未就園児への読み聞かせなどのお手伝いをしてもらっています。また PTA 活動の中で、保護者の方に絵本の修理や整理をしてもらうこともあります。

今後の課題としては、絵本部屋の環境を見直し、より親しみやすく利用しやすい雰囲気を作っていきたいと考えています。絵本の貸出しをしていますが、管理方法の工夫や蔵書の冊数を増やす必要性を感じています。

今後も、子どもたちがますます絵本やお話が大好きになり、いつでも絵本に触れられ親しめる環境づくりを目指していきたくと考えています。



ボランティアによる読み聞かせ